



輸送性、日持ち性抜群！シャリ感あふれる紅こだま

特性

- ① 葉は立性でやや硬く、つるの伸長は低温期でも良好です。草勢中位で、雌花着生は安定します。花粉の発生力も強く、低温期の着果が容易で、安定収穫が望めます。
- ② 果形はやや腰高で肩張りが良い。果重2~3kg。果皮は緑色が濃く、太い縞を現す。果肉は濃鮮紅色で色ムラが少ない。糖度は12~13度。
- ③ シャリ感に富み、食味は大変優れます。肉質は大玉品種程度にしまります。外皮は2~3mmと薄いですが硬度十分で、輸送中の裂果や生理的裂果は極めて少ない品種です。
- ④ 7~8月の高温期収穫でも果肉が変質しにくく、2番果も品質良好です。
- ⑤ 促成ハウスからトンネル・露地・抑制ハウスまでの幅広い作型に適応します。



栽培のポイント!

- ① 50~55日の大苗を定植し、極端な若苗は避けます。親づるの摘芯は苗床で行い、草勢回復後に定植します。
- ② 標準的な施肥分量は10a当たり窒素が10~13kg、リン酸が20~23kg、カリが18~20kg。窒素とカリは大玉スイカより20~30%減量、リン酸は大玉スイカと同量でよい。
- ③ 3本整枝の4果収穫(1番果2・2番果2)、4本整枝の5果収穫(1番果3・2番果2)、多づるの6果収穫(1番果3・2番果3)に適応。1番果は3番花(18~20節)に着果させる。
- ④ 液肥や有機質肥料を追肥し、2番果収穫まで強い草勢を維持。草勢に強弱を生じないように管理する。
- ⑤ 熟期は3月収穫が開花後50日、4~5月収穫が40~45日、6~7月収穫が30~35日。打音による熟期判定は外皮が硬いため困難。熟期の確認には試し切りが必要です。

上記標準栽培表を参考に貴地の気候に合わせて栽培してください。

	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ハウス		●	●	×	*	—	□					
トンネル					●	●	×	*	—	□		
露地						●	●	×	*	—	□	
抑制	*	*	□	□						●	●	×

● 播種 ---- 育苗・接木 × 定植 — 生育 * 交配 □ 収穫